三鷹市立南浦小学校　令和8年度【算数】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		○具体物や半具体物を操作する活動などを通して、数的感覚を養うことができている。 ○加法や減法の学習では、単純計算など式に対して答えることができても、文章題や問題作りになると困難になる児童がいる。 ○加法に比べ、減法に難しさを感じており、加法と減法のどちらの場面なのかを選択できない児童が数名いる。 ○直接比較や間接比較、任意単位による長さの比べ方を考えたり、任意単位により長さを数値で表すことはできても、問題文で問われたときに答えられない児童が多い。	○加法や減法は混乱しやすいので、文章題では分かっていることと問われていることを類別し、「文・絵・式」と相互に結び付けて演算決定をしたり、正しく計算したり、正しい答え方をしたりする練習を繰り返し行い、習熟を図るようにする。 ○加法や減法のどちらの場面なのかを考える際、具体物を操作させたり、絵や文を読み直させたりし、問題文を文章毎に区切って読み、加法、減法のことばを見つけて、式に表す経験を多くさせる。 ○友達と考えを伝え合う時間を設けることによって、自分の考えと比べたり、参考にしたりできるようにする。 ○特異数である5、10を優先して指導する。10の合成・分解については、5から10までの数の分解のカードを使い、毎日、繰り返し唱える活動を入れるなどして習熟を図る。 ○測定の学習において、具体的な操作や活動を充実させ、知識・技能を定着えきるようにする。 ○単元の習熟や復習のために、ミライシードやプリントを使い、基礎学力の定着を図る。
第2学年	○加法や減法は混乱しやすいので、文章題では分かっていることと問われていることを類別し、正しく計算したり、正しい答え方をしたりする練習を繰り返し行い、習熟を図ったが、減法においては答え方に課題が残った。 ○友達と考えを伝え合う時間を設けることによって、自分の考えと比べたり、参考にしたりできた。 ○10の合成・分解については、繰り返し唱える活動を入れ、繰り上がり、繰り下がりのある筆算での計算が、比較的スムーズにできた。	○文章題を苦手とする児童が多く、引き算においては文章に書かれた数字順に立式し、小さい数から大きい数を引くなど、数の大小関係を十分に捉えられていない児童もいる。また、「合わせて」「のこりは」という言葉で演算決定をしており、これらの言葉がないと演算決定が難しい様子が見られる。 ○時刻と時間では、正時前後の読み間違いが多く、また、午前・午後の区別や何分間、何分前・何分後の時刻といった計算を苦手とする児童が多い。 ○かさや長さの読み取りはできる一方、Lとdl、ml及び、cmとmmなどの単位換算や、量感の定着が十分にできていない。	○習熟度別学習の中で、児童の理解度に応じて個別の声掛けをしていく。既習事項の振り返りを繰り返し行い、学習の定着を図る。 ○自分の考えを形成する時間を十分に取る。また、友達の意見から自分の考えを広げられるようにしていく。 ○時刻や時間、長さなど、学習したことを日常生活に結び付けて活かせるよう、普段の生活の中にも取り入れた声掛けをして、量感を養う。
第3学年	○苦手な単元の復習をするために、計算ドリルの宿題はドリル本体の書き込みもして2周できるようにし、基礎学力の定着を図った。 ○習熟度別学習の中で、児童の理解度に応じて個別の声掛けをした。必要に応じて既習事項の振り返りを適宜行い、かけ算九九や数の合成、分解などの復習を授業内で取り入れた。	○学習意欲が児童によって大きな差がある。 ○自分の考えの伝え合いの時間を意図的に設定しているため、児童同士が互いに考えを表現し合うことができるようになってきている。	○学習意欲が低い児童や高い児童、それぞれに自分の目標を設定させ、自分のペースで粘り強く学習ができるような単元計画にする。 ○多くの児童が学習意欲を維持できるように教員や友達による即時評価を行っていく。
第4学年	○図や線分図などを意識的に多く使うことで、文章題を視覚的にとらえることが少しずつできるようになってきた。	○四則混合計算のまとめをしたが、かけ算、割り算だけでなく引き算の筆算なども理解が足りていない児童がいた。新しいことを学び、混乱してしまっている。 ○定規を使って正確に直線を引けない児童も多い。	○クラスごとに四則計算の復習（余りのある割り算の計算など）を行い、基礎的な計算力を高める。 ○算数用具の使い方が苦手な児童には、既習事項も含めて丁寧に指導して練習する機会も設ける。
第5学年	○考えたことを友達と共有する時間をもち、考えが深まるようにした結果、多角的に考える素地を養うことができた。 ○理解が十分でない児童や個別な支援が必要な児童へ配慮した指導をした結果、基礎的な知識・技能を身に付けることができた。 ○朝学習の時間に、東京ベーシックドリルの活用による前学年の復習をしたり、現学年の学習内容を復習したりして学習内容の定着を図ったが、更に思考力・表現力・判断力を養いたい。	○分度器やコンパス等の算数用具の使い方を理解し、概ね適切に使うことができている。 ○小数のかけ算、わり算の技能が身に付いていない児童が多い。 ○図や表をかいて理解を促したり、考えを表したりできる児童が少ない。	○東京ベーシックドリル、ミライシードを活用し、自分の苦手な単元を把握し復習できるようにし、小数のかけ算やわり算の筆算を始め、基礎的・基本的な知識・技能が身に付けられるようにする。 ○図のかき方を指導し、図をかく頻度を上げることで理解を促したり、考えを表現したりできるようにする。 ○子どもたちが自分の気付きや自他の意見・考えを大切にする態度を育むため、自分の気付きを書き込めるノートの構成を指導する。
第6学年	○学習の振り返りの時間をもつことで、自分の力を伸ばしていくために何をすればよいかを考え、自己決定する力を身に付けることができた。 ○友達と考えを共有する時間を多くもち、自分の考えを伝えたり、友達に教えたりすることで理解を深められた。 ○書く内容を精査してノートに書く量を減らしたことで問題に取り組む時間を確保でき、児童の「できた」「わかった」を増やすことができた。	○課題に対して自分の考えをもち、ノートに記述したり、友達と意見交換したりすることができる児童が多いが、自分の考えに自信をもって発表しようとする児童が少ない。 ○図を用いて考えることができる児童が多い反面、線分図のかき方に慣れていない児童もいる。 ○基本的な知識・技能は身に付いているが、問題に対して一つの解法で満足し、多角的な考え方を展開して考えようとする児童が少ない。	○友達の意見を聞いて図をかいたり、図から考え方を説明したりする活動を増やし、意見を言いたくなる場を設定する。 ○既習内容を掲示しておき、言葉の式、図、表、線分図、数直線などを活用できるように繰り返し指導していく。 ○考えを伝え合う時間を十分に確保することで、自分の考えに自信をもって説明したり、様々な考え方に触れて多角的に考えたりする素地を養う。